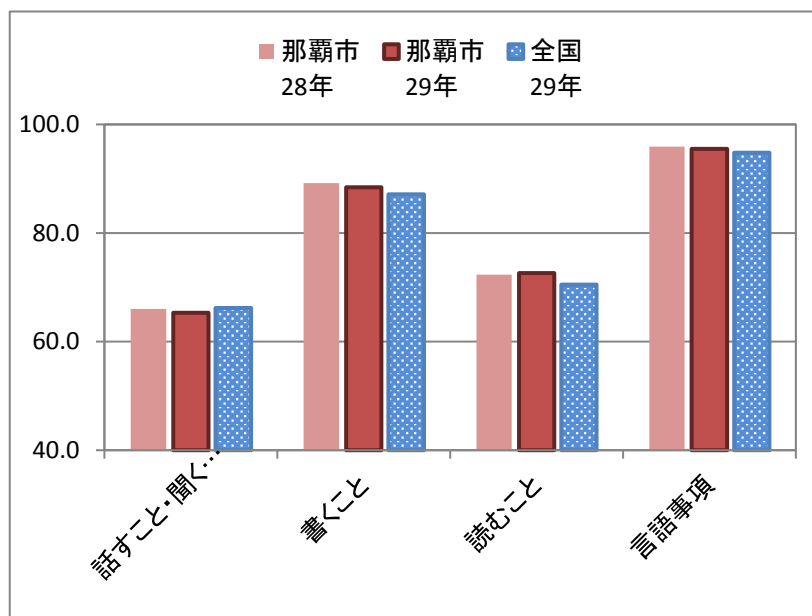
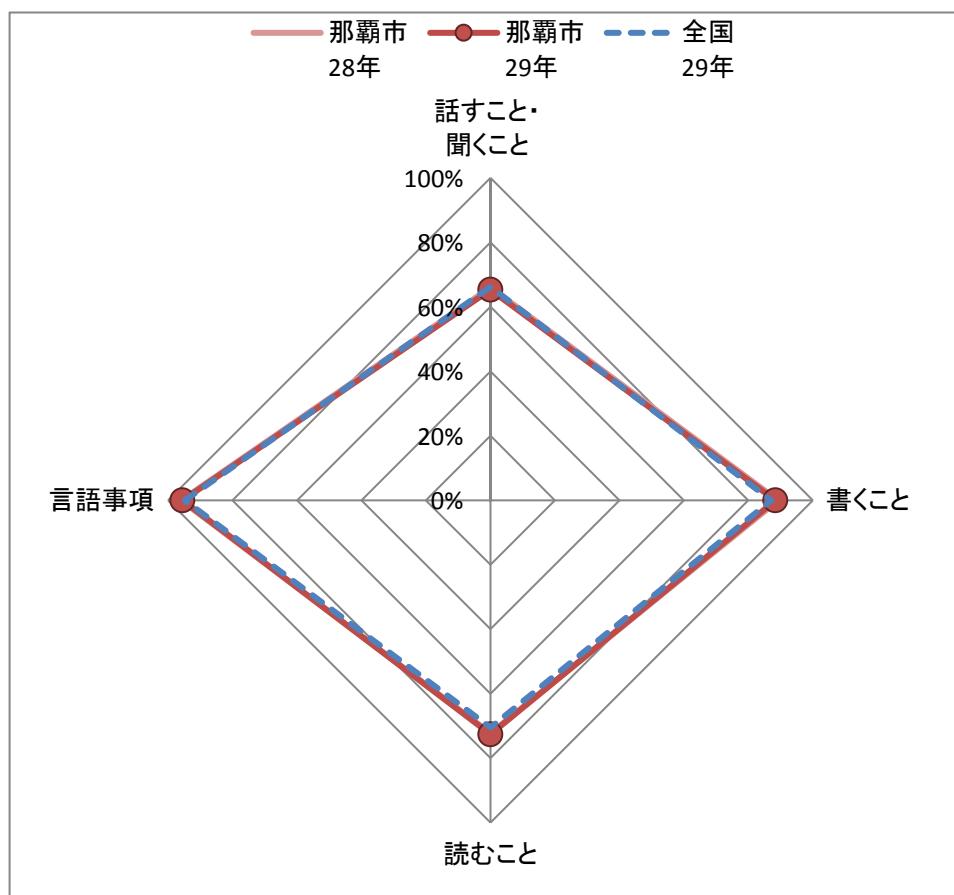


【 第2学年 国語 】

平成29年度那覇市標準学力調査

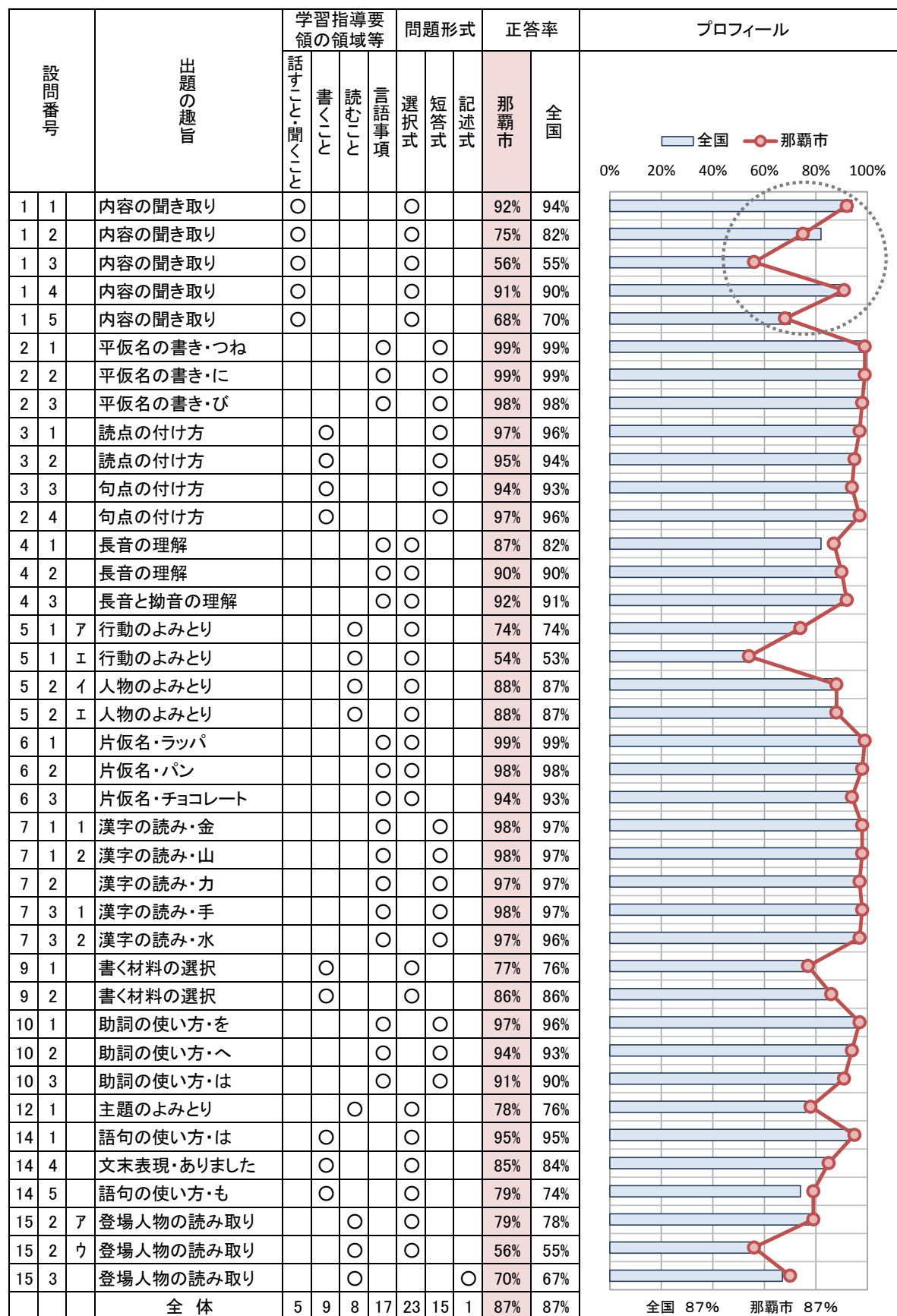
領域別結果（昨年度・全国との比較）

第2学年 国語	那覇市 28年	那覇市 29年	全国 29年
話すこと・聞くこと	66.0	65.3	66.2
書くこと	89.2	88.4	87.1
読むこと	72.3	72.6	70.5
言語事項	95.9	95.5	94.8



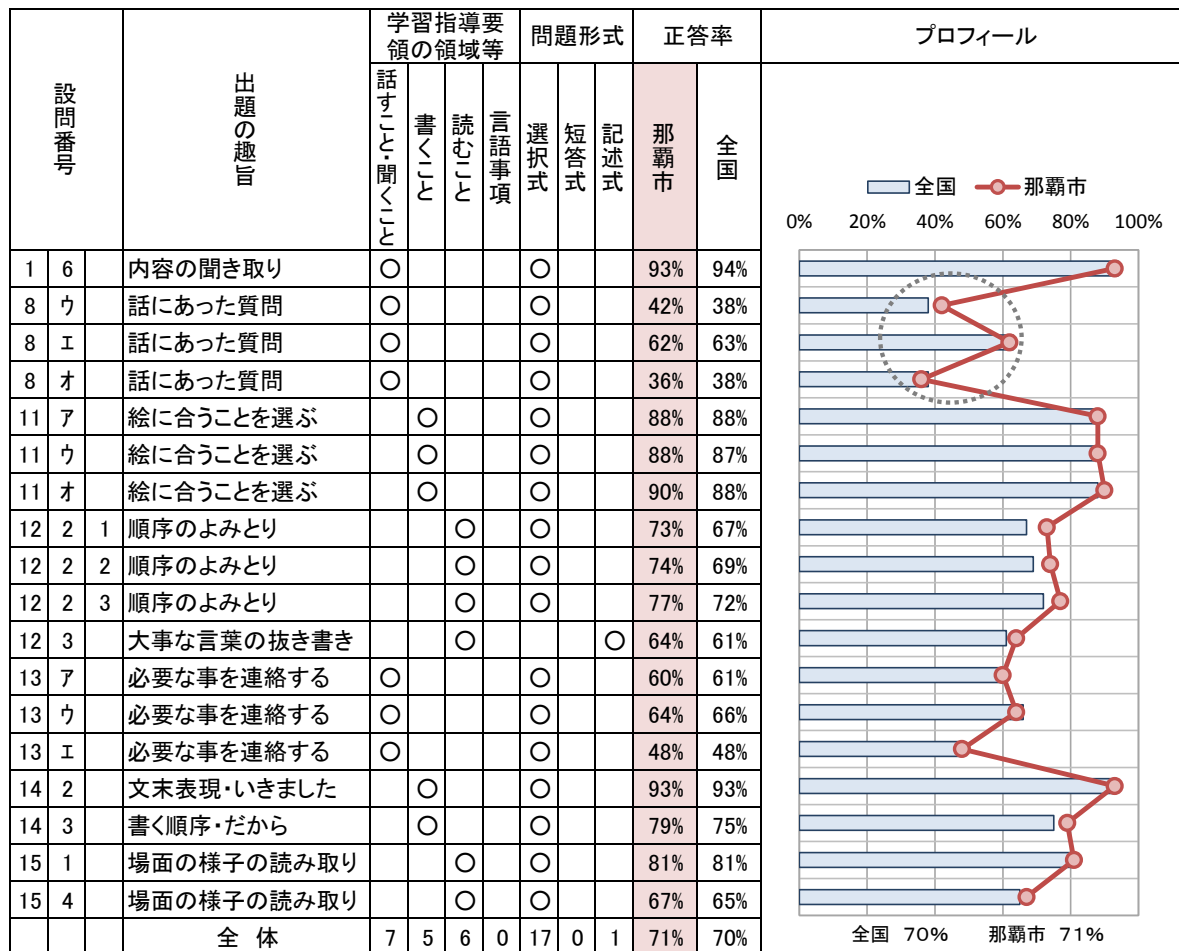
第2学年 国語 要素1

問題別調査結果 那覇市-全国 比較 【要素1 知識・理解、技能】



第2学年 国語 要素2

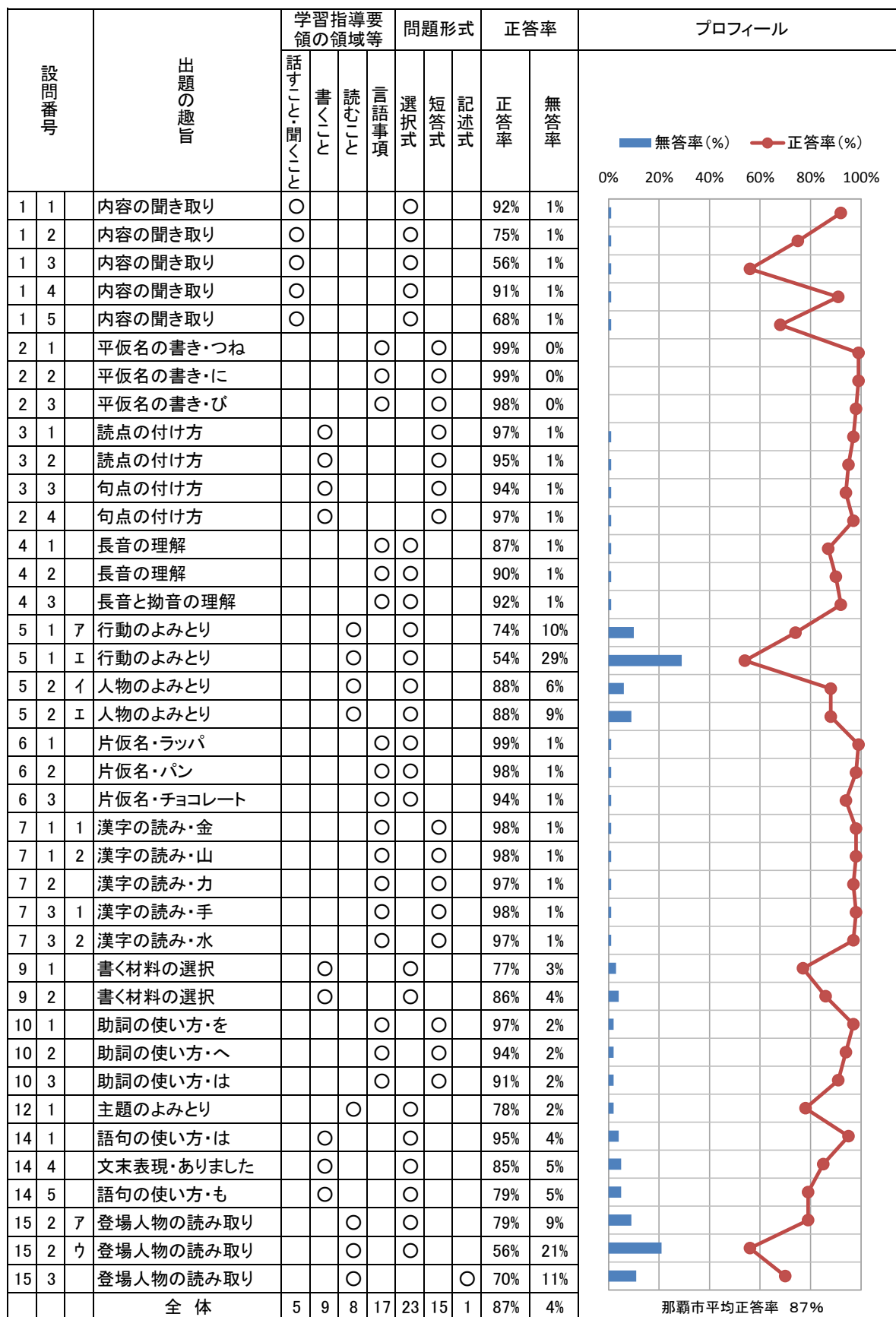
問題別調査結果 那覇市-全国 比較 【要素2 思考力・判断力・表現力】



・・・課題となる問題として、考察コメントがあります。
P7～P9参照

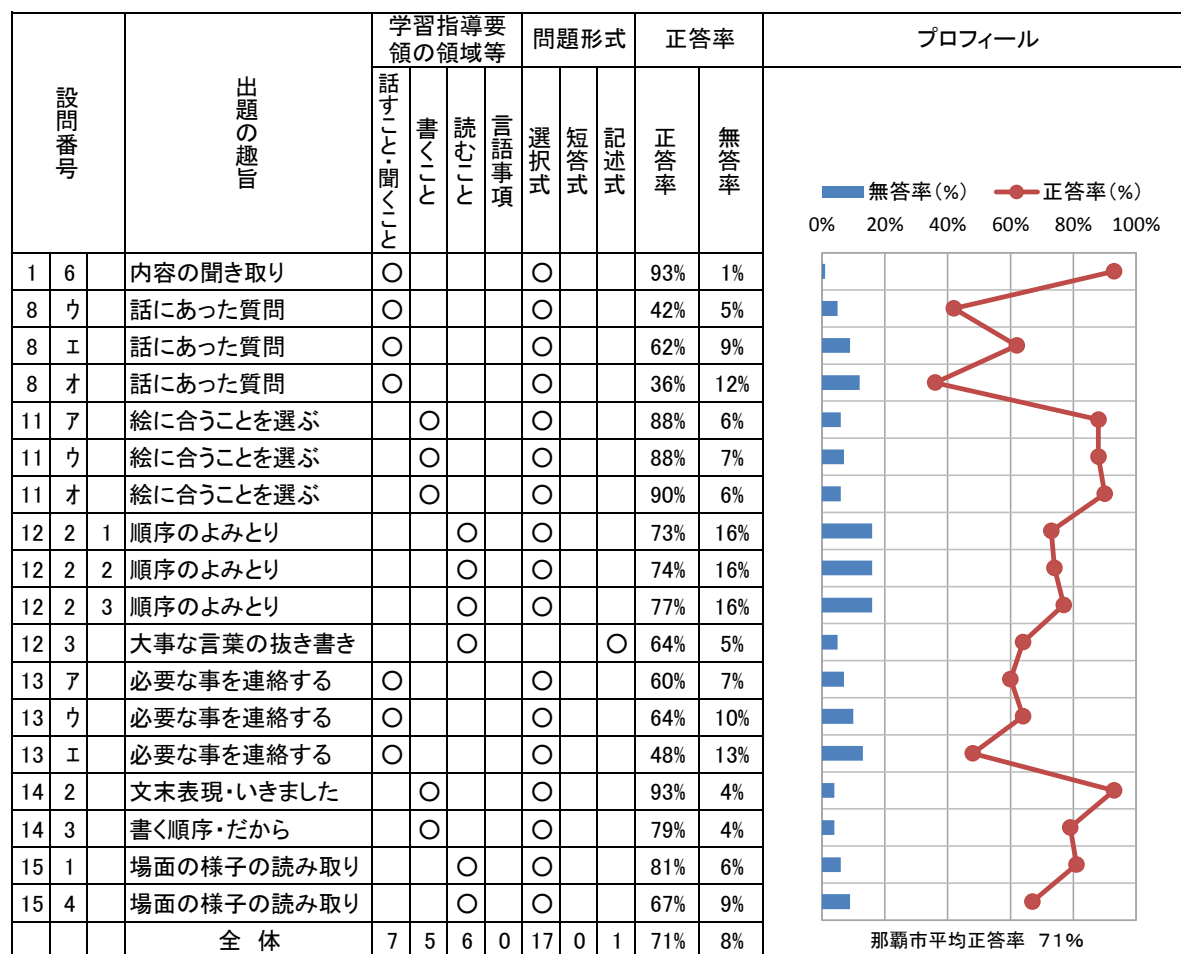
第2学年 国語 要素1

問題別調査結果 正答率－無答率 【要素1 知識・理解、技能】



第2学年 国語 要素2

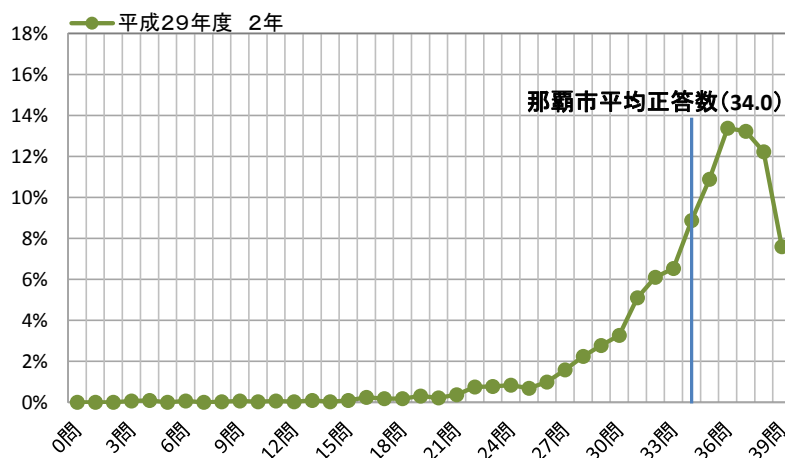
問題別調査結果 正答率-無答率 比較 【要素2 思考力・判断力・表現力】



度数分布【要素1 知識・理解・技能】

第2学年 国語

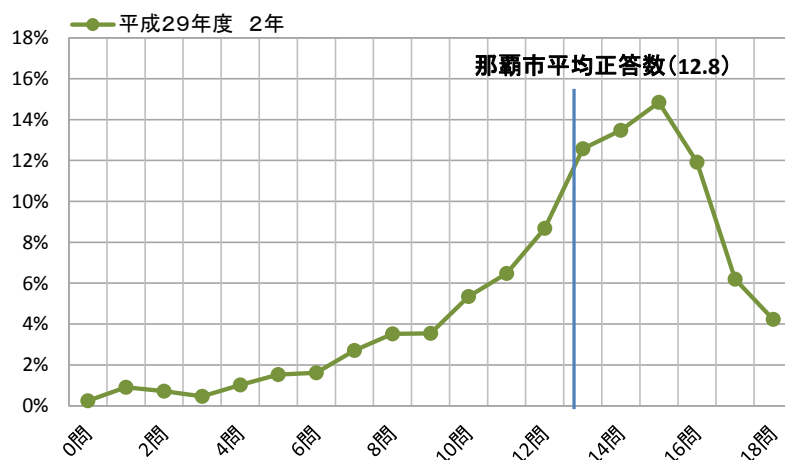
	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
那覇市	3214	34.0 / 39	87%	35問	4.6



正答数集計値 (左:児童数 右:割合(%))		
正答数	那覇市	
	人数	割合
0問	0	0.0%
1問	0	0.0%
2問	0	0.0%
3問	2	0.1%
4問	3	0.1%
5問	0	0.0%
6問	2	0.1%
7問	0	0.0%
8問	1	0.0%
9問	2	0.1%
10問	1	0.0%
11問	2	0.1%
12問	1	0.0%
13問	3	0.1%
14問	1	0.0%
15問	3	0.1%
16問	8	0.2%
17問	6	0.2%
18問	6	0.2%
19問	10	0.3%
20問	7	0.2%
21問	12	0.4%
22問	24	0.7%
23問	25	0.8%
24問	27	0.8%
25問	22	0.7%
26問	32	1.0%
27問	51	1.6%
28問	72	2.2%
29問	89	2.8%
30問	105	3.3%
31問	164	5.1%
32問	196	6.1%
33問	210	6.5%
34問	285	8.9%
35問	350	10.9%
36問	430	13.4%
37問	425	13.2%
38問	393	12.2%
39問	244	7.6%

度数分布【要素2 思考力・判断力・表現力】

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
那覇市	3214	12.8 / 18	71%	14問	3.6



正答数集計値 (左:児童数 右:割合(%))		
正答数	那覇市	
	人数	割合
0問	8	0.2%
1問	29	0.9%
2問	23	0.7%
3問	15	0.5%
4問	33	1.0%
5問	49	1.5%
6問	52	1.6%
7問	87	2.7%
8問	113	3.5%
9問	114	3.5%
10問	172	5.4%
11問	208	6.5%
12問	279	8.7%
13問	404	12.6%
14問	433	13.5%
15問	477	14.8%
16問	383	11.9%
17問	199	6.2%
18問	136	4.2%

小学校2年国語において、要素1(基礎的な内容)で平均正答率が87%、要素2(活用的な内容)で平均正答率が71%であった。要素1では、39問中、中央値が35問であり、満点に近い高得点に得点の分布が集中しており、基礎的な内容を実に習得できている児童が多いと考えられる。要素2では18問中、中央値は14問であり、標準偏差(得点のばらつき)が3.6と小さな数値となっており、高得点の児童が多い分布となっている。

傾向の分析と課題となる問題

—小学2年 国語—

●全体的な傾向●

【要素1 知識・理解／技能】

成果

- ・平仮名の書き、片仮名の書き、漢字の読み、句読点の付け方、長音、長音と拗音の理解など、「言語事項」に関しては、全国比で高値または同値であったので、定着していると考えられる。

課題

- ・「話すこと・聞くこと」の中で、話を聞き、内容を正しく聞き取ることに課題がみられる。（大問1）

【要素2 思考・判断・表現】

課題

- ・「話すこと・聞くこと」の中で、聞いた話に沿って質問をする内容を選ぶ問題ができておらず、課題がみられる。（大問8）

【指導にあたって】

- ・「話すこと・聞くこと」では、相手が話したい内容のポイントをおさせて聞き、場に合った質問ができるようにしたい。
- ・「話すこと」「書くこと」など、自分から相手に何かを伝える際には、思ったことや表現したいことをそのまま話したり書いたりするのではなく、何が大切となるか、相手にとって必要なことは何かなどを考えたり、順序を整理してから、話したり書いたりする姿勢を育てたい。

●課題となる問題●

- * 「知識・理解／技能」・「思考・判断・表現」の要素別に、次ページ以降、分析を掲載しています。表に掲載しているカテゴリーの説明は以下の通りです。

問題番号			問題内容	通過率	無答率	全国	形式
1	1		内容の聞き取り	92	1	94	選択式

通過率：那覇市児童の正答率（％）

無答率：那覇市児童の無解答率（％）

全 国：全国児童の正答率（％）

形 式：解答形式

小学2年（小学1年学習内容）国語 【知識・理解／技能】

問題： 1 【 1・2学年 話すこと・聞くこと A（1）アエ 】

問題内容：身近な話題として話されたことを正しく聞き取ることができるかどうかをみる問題。

問題番号			問題内容	通過率	無答率	全国	形式
1	1		内容の聞き取り	92	1	94	選択式
	2		内容の聞き取り	75	1	82	選択式
	3		内容の聞き取り	56	1	55	選択式
	4		内容の聞き取り	91	1	90	選択式
	5		内容の聞き取り	68	1	70	選択式

誤答分析

3では、ウを選ぶ誤りが多い。（話された「好きな花の色」を正しく聞き取れていない誤り）

この問題は、人が好きな花や、その花が咲く季節について話している場面を放送問題で聞き、その内容についての設問に答える問いである。

指導に当たって

低学年では、「話すこと・聞くこと」では、身近なことや経験したことなどから話題を決めて話し、目的に応じて相手の話を聞き、自分とかかわらせて聞くことが大切となる。また、聞く際には、話されている内容の大事なことを落とさないように、興味を持って聞く姿勢も大切となる。また、「話し手が自分に知らせたいことは何かを考えながら聞く」ことも併せて指導するとよい。

通過率を見ると、1－2では、全国よりも通過率が低く、1－3では通過率が56%と約半数しか正答できていない。1－2・3は、話された内容の中では、詳細な内容ではあるが、いずれも好きな花にかかわる内容で話された内容であり、よく聞いていれば正しく答えることができる内容である。大切だと思う内容は、メモをとるとさらに聞き漏らすことが少なくなるので、簡単なメモの取り方を指導するのもよい。（上図参照）

改善 話し手が知らせたいことを落とさないように集中して聞く。指導事項A 話すこと聞くこと(1)エ

- 話し手が自分に知らせたいことは何かを考えながら聞く。
- 事柄の順序を意識しながら聞き、話の内容を把握する。
- 自分とかかわらせて聞く。

指導

簡単なメモのとり方

あさひちそひな
さがまわりのうろお
がわりりたと
おりっブ

誰が？
（読む、登場人物）

どうした？

簡単な単語で

指導例

朝の活動等での一分間スピーチ

身近な話題を決め、スピーチの場面を設定し、質問をさせる。また、話し合う場面を設定し、話題に沿って質問をし合うと活動を行う。その際、話者が伝えることの中心をおさえ、聞いた内容に関連して、自分がもっと知りたいと思ったことを質問すればよいことを指導する。

小学2年（小学1年学習内容）国語【思考・判断・表現】

問題： 8 【1・2学年 話すこと・聞くこと A（1）イエオ（2）アイ】

問題内容：身近なことについて話された事柄を聞き、話題に沿って質問することができるかどうかをみる問題。

問題番号			問題内容	通過率	無答率	全国	形式
8	ウ		話にあった質問	42	5	38	選択式
	エ		話にあった質問	62	9	63	選択式
	オ		話にあった質問	36	12	38	選択式

誤答分析

ア・カを選ぶ誤りが多い。イのように話題に関係のない選択肢は排除できているので、話題は捉えられていると考えられるが、すでに話されている内容を質問してしまう誤りをしている。

指導に当たって

低学年の「話すこと・聞くこと」の中で、話し合いの指導では、お互いの考えや立場などを尊重しながら集中して聞き、話題に沿って話し合うことが大切となる。

通過率を見ると、ほぼ全国と同様の通過率であるが、正答を選べる児童が4～6割であり、定着が十分とは言えない。

話の内容について簡潔にメモをとる訓練をすると、メモを見返して、既にわかっていることとまだわからないことが明確になり、既にわかっていることを聞いてしまうことを防ぐことができる。メモの取り方として、誰が～した、～言った、等の行動や色、形、数などの様子等、メモの視点を指導する。（右図を参照）

課題 小学2年(小学1年学習内容)国語【思考・判断・表現】

問題: 8 【1・2学年 話すこと・聞くこと A(1)イエオ(2)アイ】

問題内容: 身近なことについて話された事柄を聞き、話題に沿って質問することができるかどうかをみる問題。

ア・カを選ぶ誤りが多い。
既に話されていることを質問している。

指導 **簡単なメモのとり方（メモの視点）**

- ・ 誰が～した ～言った。
- ・ 様子…色、形、数等

言語活動 **尋ねたり応答したりするなどして少人数で話し合う**

指導例

メモを取る活動

今回の問題のような素材を取り上げ、5分ほどの時間を取ってメモを書かせる。そうすると、メモを取る中で、「どんな形?」「どんな色?」「いくつ?」等、子どもたちから自然に質問が沸いている。その質問がメモを取る視点になるよう、指導を行う。

尋ねたり応答したりするなどして少人数で話し合う活動

少人数の話し合いでは、多人数での話し合いに比べ、一人一人が発言する機会も多い。話し手と聞き手の距離も近く、分からないことも質問したり応答したりしやすいので、機会を多く持つ。